

Integral Education Study Group
第1回 2015年3月

内容

1. 挨拶（自己紹介・鈴木 & 後藤）
2. Integral Japan について
3. Integral Education Study Group について
4. Vision Logic について
5. 注意点
6. カリキュラム紹介
7. 参加者自己紹介
8. Dynamic Skill Theory 紹介
9. 質疑応答
10. まとめ

Dynamic Skill Theory の重要概念

- Ladders and Webs: Metaphors of Adult Cognitive Development
- pre-analytic vision
- 変動的・変動性 (variability)
- 文脈依存性 (domain specific)
- 個々人の成長の独自性: “each person constructs a unique web”
- developmental range : Automated • Functional • Optimal • Scaffolded
- Functional Level : 日常状態
- Optimal Level (peak-experience/peak-performance) 上昇 → plateau or drop
- Optimal Level の発達と Functional Level の成達は異なるパターンを示す
- 年齢を重ねるごとに Optimal Level と Functional Level の差はひろがる
- Optimal Level の急上昇は、複数の能力を横断して同時に起きる傾向がある (同時性・共時性) → emergence zone
- 人間の能力は基本的に社会的文脈の中で発揮されるものである。個人の能力を測定するときに、孤立した個人を測定するのではなく、関係性の中の個人の能力を測定する必要がある。また、関係性 (共同作業) において、人間はしばしばひとりであるときよりも高いレベルの能力を発揮する
- ある課題領域において、高次のレベルの能力が確立されると、人間はそれを (その課題領域内の多様な文脈の中で) 安定的に発揮できるように時間を掛けて努力をしていく。たとえば、ある実験では、それよりもさらに高いレベルの能力が確立されたときに、はじめてそのレベルで安定的に能力が発揮されるようになるという結果が出ている。
- 知識 (理論・体系) を確立するためには、単にそれを着想するだけではなく、同じアイデアを多様な角度から何度も「構築」することをおして、徐々に結晶化させるプロセスが必要 (repeated construction → generalization)。同様にある知識や技術を獲得するとは、それを多様な角度から、また、多様な文脈で繰り返して習うことが重要。
- Backward Transition と Forward Consolidation

示唆

- 多様な話題や領域にたいして、VL 的な発想を適用していくことが重要であるということ。ある特定の話題・領域の中に留まり、探求を続けるのではなく、他の話題や領域に積極的に関心を向けて探求をするという姿勢を失わないようにすること。
- 自己の探究活動を長期的な視野で眺めて、基礎の確立に十分な時間をかけること。高次の洞察を獲得しようとするのであれば、ひろい裾野の基礎を確立することが重要となる (裾野が狭いと、結局、発達が途中で止まることになる)。また、常に上昇をしようとするのではなく、必要に応じて、退行することを心懸けること。
- 現在、直面している成長上の課題を克服するためには、さらに少し高度のレベルにも手を伸ばしてとりくむこと (Forward Consolidation)
- 複数の領域の能力を並行して鍛錬すると、それらが Emergence Zone で同時的に急激に伸びることを考慮して、ひとつの領域に関心を狭めることなく、ある程度の幅の領域を並行的に探求すること。
- ひとりで孤独に学習をしようとするのではなく、関係性の中で学習することの重要性を認識すること